

八ヶ岳

プチ アルパイン

柳川北沢 峰の松目南西沢 アイスクライミング

小暮

前夜は八ヶ岳山荘の仮眠室に泊まり、朝早く出発。北沢のアイスルートでは最下流にある峰の松目南西沢はアプローチが近い。堰堤広場から1本目の橋を渡り、下流へ進んだところが峰の松目南西沢の出会いである。どうやら今シーズンはまだ人が入っていないようである。

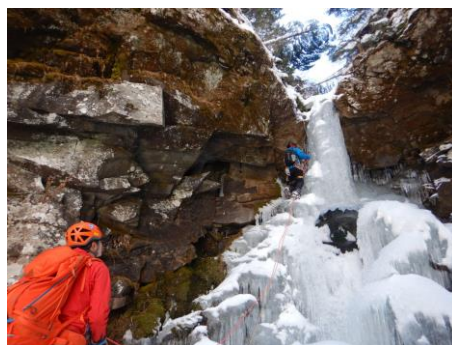
まっさらな沢筋をトレースをつけていく。時期が早いいためか水流が一部露出しているところもある。F1手前に余計な荷物をデポして、登攀準備する。どうやら先々シーズンに登ったF1の手前右岸にかかる水瀑は氷結がまだあまりよくない。



まずはF1で足慣らし

F1(3mⅢ)は短いシーズン初めなのでロープを出すことにする。平川くんのリードだが、落ち口でも支点を取らずに登ってしまった。続くF2(6mⅣ)は水流が透けて見えそうだが、左側はばっちり氷結し

ている。小暮リードでワンポイントの登り。落ち口は氷が薄く、岩を叩かないように引っ掛けで登る。氷が無いときの登り方の練習が必要だ。



氷結ばっちり F2

その先は河原を少し歩く。左岸支流の滝は発達は今一つだが、なんとか登れそう。今回はパスして本流F3(8mⅣ)へ向かう。手前の小滝はフリーで登り、F3は平川君くんのリードで登ったが、落ち口が微妙でぎりぎりの登りとなり、フォーシないかとヒヤヒヤした。F4(5mⅣ)は小暮リード。F3と同様に氷結はばっちりだが、落ち口が薄い。慎重に登った。



落ち口は慎重に

その先はしばらく開けた沢筋となる。下流部は日陰で氷結もばっちりだったが、上流部は日向となりやや氷結が甘い。

F5(6mIV)を小暮リードで登る。連瀑となるF6(10mIV+)は日当たりが良いためシャーベット状で、落ち口は2mくらい氷がないためリードは無理だと登るのは断念した。F6が一番立派な氷瀑なだけに残念であるが、シーズン初めなのでやむを得ない。

ここから同ルート下降として、懸垂下降で基部へ戻る。下降用のスリングが設置されているのだが、F2は残置スリングのかかった灌木は根本から崩れていたもので、右岸の木の根にかけ替えて下降した。ルート基部に戻り、楽しいシーズン初めの余韻に浸る。帰路の登山道はあつという間でワンピッチで美濃戸口へ下山となった。



F5

峰の松目南西沢は、峰の松目沢に比較して全体的に滝が小ぶりな印象だが、一つ一つの滝は落ち口が微妙だったり斜上しながら登ったりと、やや経験者向けの印象がある。また、峰の松目沢は近年はガイドがたくさん入っているようだが、こちらはそれほどでもない。渋好みという感じだろうか。いずれにしてもアプローチが近くで便利なので、また何度か訪れることになるだろう。

※トポは月報2020年3月号参照

DATA

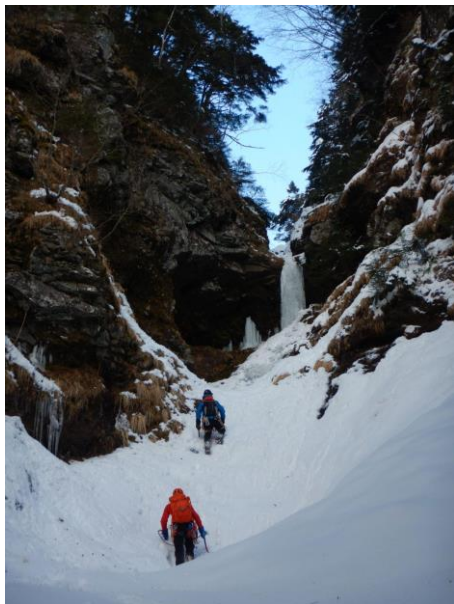
山行日 2021年12月12日

行程 赤岳山荘(6:45)～峰の松目南西沢F1(8:00/8:50)～F5上(11:40/45)～F1下(13:25/13:45)～赤岳山荘(14:45)

地形図 八ヶ岳西部



メンバー 小暮(L)、福永、HR、笹川



沢漕行って感じ!